

二日目は初顔の新小結若巨。巨漢の若巨に對してどう目立った相撲を見せるか注目された。立合いから低い体勢で左から攻めて、向正面に一気に寄り切った。「強えなあ！」と親方衆から声があがる鋭い出足だった。

今場所もこのまま白星を重ねるかに思えたが、三日目に烏帽子岳にまさかの黒星を喫した。両者の体が土俵について取り直しとなった。一番は、両者が前のめりになって押し合う展開になり、烏帽子岳が低い体勢のまま春ノ翔を正面に寄り切った。意外な結果にいつもなら「よっしやあ！」とご近所の迷惑も考えず奇声を発する磯ノ海親方もいつもと勝手が違ってたか「あれっ？勝っちゃったよ！」と小声で喜んでた。

先場所四日目から休場した横綱美空富士。今場所、出場したものの糖尿病の悪化ですっかり痩せ細り、かつての美空富士の面影がまったく感じられない。それでも何とか復調を



美空富●(寄り倒し)○剛勇山

と桐壺親方と今場所に向けて必死に調整してきたこと。「相撲を取ってみたいとわかないけど...。」と桐壺親方。しかし、初日に磯昇、二日目に剛勇山、三日目は英笹と



美空富●(寄り切り)○磯昇



烏帽子○(寄り切り)●春ノ翔



若巨●(寄り切り)○春ノ翔

3日間とも相手に左を差される相撲で敗れた。美空富士はほぼ本来の四日目からの相撲に期待したい。

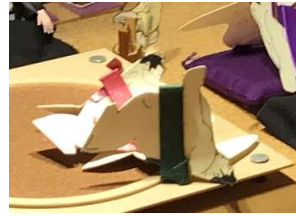
先場所、新大関の場所が優勝した佐賀ノ海。今場所は綱獲り場所と周囲から言われていたが、本人は至って冷静。錦風親方も「横綱を意識せず自分の相撲を取ればいい。」と欲をみせる様子がない。初日の相手は剛勇山だったが、剛勇山に立合いに左を差されると何もできずに向正面に寄り切られた。「今場所の佐賀ノ海は大丈夫か？」との声も聞かれたが、二日目は伝家の宝刀のど輪で磯昇を破ると、三日目は出羽翼をはたき込んで勝ち星先行とした。

今場所、カド番の大関電は初日に烏帽子岳を上手投げで下したが、二日目に「出羽翼」が、二日目に若巨に負けて三日目と黒星先行のスタートとなった。

大関への足固めの場所と期待される大関電の出羽翼と三日目の大神楽には千代鈴らしい力強い相撲で勝った。子岳に左を差されて寄り切られる完敗だった。ここからどう勝ち星を重ねてくるか、四日目の相撲に注目が集まる。



大神楽●(寄り切り)○千代鈴



魁電○(上手投げ)●烏帽子



佐賀海●(寄り切り)○剛勇山



美空富●(寄り切り)○英笹

平幕では、元大関の照の王と鬼ヶ嶽が共々いい相撲で3連勝として好スタートを切った。二人とも十両に落ちてどうかと思われたが、春日根部屋への出稽古で蘇ってきた。再び上位での相撲が見たいものだ。

また、前頭上位で元気のいい相撲を見せたのが磯ノ海部屋勢。前頭筆頭から五枚目までの番付になんと6人が名を連ね、横綱大関との3連戦だった磯昇が1勝2敗だった以外、超刃が3連勝、烏帽子岳、大神楽、白閃光、玄武岩の4人が2勝1敗と全員が好成績のスタート。今場所は磯ノ海旋風が吹き荒れるかもしれない。(錦風)

### 十両は春番らが3連勝

今場所の注目目は、6人を擁する勝間田部屋や新十両が2人誕生した春日根部屋も当然ながら目玉だが、それよりも十年に一人の逸材と言われた黒船をも凌ぎそうな友砂部屋期待の星の「暫」だろう。黒船の新十両場所から12年が過ぎ、四股名のおり暫く振りでもり砂親方の暫にかける期待はスカイツリーより遥かに高そうだ。

三日目まで取り終えて3連勝としたのは烏海波、暫、琴乃王、宇治家の4人になった。烏海波は初日西安と2日目西勢ノ里に共々差しを許したが先に相手のまわしが付く運も味方して白星を拾った。今後更に星を伸ばせば一場所での幕内返り咲きも見えてくるだろう。

先場所の幕下優勝で一気に番付が東九枚目まで上がった暫は、剣将と水晶嶽に全く相撲を取らせない完璧な左差しで完勝、二日目の虎ノ國には今度は右攻めから押し倒しに破り、左右どちらからでも取れる器用さも見せた。この3連勝の相撲を見る限りでは早くも優勝候補の筆頭と呼び声も聞こえてきそう。



暫 ○(寄り切り)●水晶嶽

二日目を終わったところで、友砂親方が「暫どうか？」と叩き手の勝間田親方に聞く場面も。傍から見れば圧勝に見えても親方本人からすれば心配なところもあるのだろう。この3日間とも実際に土俵に上った観ることはなく二階でもテレビ観戦となったのもそのせいかもしれない。

琴乃王は自身の持ち味であるしびとい相撲で引き落としで連勝。三日目は一転して冬牡丹に左を差し勝って寄り切りを下す相撲で快勝。この取りづらさの曲者振りは今も健在である。

先場所新十両で5勝6敗の成績で何とか十両の地位を守った宇治家だったが、今場所は打って変わって初日から白星を3つ並べた。初日、二日目は新十両の春日根勢に對し、西神門には相手のお株を奪う左差しから寄り切り、また西渡海にはのど輪での押し倒しに仕留め三鷹にも勝って好スタート。今場所は一転ブレイクとなるか。

ともに宇治家に敗れてしまった西神門と西渡海ではあるが黒星は2人もこの一敗のみ育成会から幕下、更に関取へと着実に昇進を果たす実力振りは、他の部屋にとっては羨ましいやら脅威やらのなものでもない。この後も有望な若手が上がって来ることだろう。

四日目を降この2人と暫との対戦は何日目に組まれるのかも楽しみなど。東西五枚目までのうち、半分の5人を占める勝間田一派。東筆頭の山辺は勝ち越せば入幕という位置での1勝2敗のスタート。「何で筆頭まで来たのにちゃんとした四股名付けてあげないのよ」と理事長や親方衆から助言が。

勝間田親方曰く、「ここまで番付が上がるとは予想していませんよ」とのこと。しかし、山辺の胸の内を知らない親方に對し、改名の話も聞いた山辺本人は「地元の駅名から付けた愛着ある四股名なのに」と付け人から漏らした愛着ある四股名は「勝越し」と勝越しが決となる。四日目を降も暫を中心に展開していくきそうな十両の土俵である。(勝間田)